



2023年

埼玉の



埼玉県マスコット
「さいたまっち」



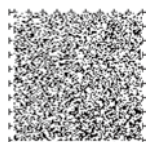
埼玉県マスコット
「コバトン」

食料・農林水産業・農山村



彩の国
埼玉県

音声コード
(Uni-Voice)



専用アプリ又は活字文書読み上げ装置で、情報を音声で聞く事ができます。



本県は、恵まれた自然条件と、大消費地である首都圏の中央に位置する「地の利」を生かし、野菜、米、麦、花き、果樹、畜産など多彩な農業生産が行われています。特に、野菜は産出額が全国第9位、花き及び小麦は第6位と、全国でも有数の産地です。また、県土の3分の1を占める森林は、木材を供給するだけでなく、水源の涵養、二酸化炭素の吸収・貯蔵などにも大きく貢献しています。

農林水産業・農山村は、食品産業や観光業などと結び付き、地域経済や県民生活に活力をもたらす役割を担っており、また、県土の保全、美しい風景や伝統文化の維持・形成などを通じて県民の安全で豊かな暮らしにも寄与しています。

現在、食料・農林水産業・農山村を取り巻く環境においては、長期的な人口減少に加え、燃料・資材の価格高騰、気候変動による農作物への影響や災害の深刻化など様々な課題が生起する一方、スマート農業技術の発展など活かすべきチャンスも生まれています。

県では、こうした環境変化に的確に対応し、農林水産業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和3年3月に、「埼玉県農林水産業振興条例」に基づき「埼玉県農林水産業振興基本計画」を策定し、様々な取組を進めています。

この計画に基づき、農林漁業者の経営力向上や、農林水産業の競争力・持続力の強化を図り、農林水産物の安定供給や農山村の魅力の発揮を通じて、広く県民の皆様に喜ばれる農林水産業・農山村の実現を目指します。

具体的には、農林水産業への新規就業を促進し、地域の農林水産業を支える多様な担い手を育成・確保するとともに、経営の法人化を推進し、経営改善を図ります。

また、農業生産基盤の整備により営農条件の改善を図り、高収益を目指す農業経営体を育成するとともに、アグリテック・フードテックと呼ばれる先端技術を活用した農林水産業の活性化、有機農業の普及や県産農産物の需要拡大などのほか、気候変動や家畜伝染病など様々なリスクへの対応に取り組みます。

さらに、農山村が魅力あるものとなるよう、農業用水周辺の水辺空間などの環境整備を行うとともに、適正な森林整備を通じて、水源涵養や土砂流出防止、二酸化炭素の吸収など公益的機能の発揮を促進してまいります。

この冊子は、埼玉の食料・農林水産業・農山村について、現在の姿や令和5年度の主な施策をグラフや写真を使ってまとめたものです。

県民の皆様をはじめ多くの方々の御理解を深めていただく一助となれば幸いです。

令和5年8月

埼玉県知事 大野元裕

目次

- 1 本県の概要 1
- 2 全国的にみた埼玉農林業の地位 2
- 3 埼玉農林業の構造 3
- 4 生産の現状 7
- 5 令和5年度の主な食料・農林水産業・農山村施策 13

埼玉県のシンボル



県章



県民の鳥「シラコバト」



県の木「ケヤキ」



県の花「サクラソウ」



県の蝶「ミドリシジミ」



県の魚「ムサトミヨ」

2 全国的にみた埼玉農林業の地位

◆ 農 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
農家	総農家 * 1	戸	46,463	1,747,079	2.7	14	令和2年2月1日
	販売農家		27,588	1,027,892	2.7	16	
	自給的農家		18,875	719,187	2.6	13	
耕地	耕地面積 * 2	ha	73,300	4,325,000	1.7	16	令和4年7月15日
	田		40,800	2,352,000	1.7	23	
	畑		32,400	1,973,000	1.6	13	
	1戸当たり耕地面積 * 3		1.58	2.48	—	—	
耕地利用率 * 2	%	86.7	91.4	—	27	令和3年	
農業生産	農業産出額 * 4	億円	1,528	88,384	1.7	21	令和3年
	米		248	13,699	1.8	18	
	野菜		743	21,467	3.5	9	
	花き		158	3,306	4.8	6	
	畜産		264	34,048	0.8	33	
	生産農業所得 * 4		593	33,479	1.8	21	
生産農業所得率 * 5	%	38.8	37.9	—	18		
食料自給率	カロリーベース * 6	%	10	37	—	44	令和2年度(概算値) (全国は確定値)
	生産額ベース * 6		17	67	—	44	

(* 1 農林水産省「農林業センサス」 * 2 農林水産省「作物統計調査」 * 3 耕地面積を総農家数で除した面積
 * 4 農林水産省「生産農業所得統計」農業産出額及び生産農業所得の全国値は都道府県の合計値とは異なる。なお、全国比率は都道府県の合計に対する割合である。
 * 5 農業産出額に占める生産農業所得の割合。 * 6 農林水産省「食料需給表」「都道府県別食料自給率」)

■ 農業産出額が全国上位の主な品目 (令和3年産)

	ねぎ	さといも	ほうれんそう	こまつな	かぶ	洋ラン(鉢)	ゆり	フロクロー	はくさい	きゅうり	えだまめ	みずな
1位	埼玉	埼玉	埼玉	茨城	千葉	愛知	新潟	北海道	長野	宮崎	群馬	茨城
2位	千葉	千葉	群馬	埼玉	埼玉	福岡	高知	香川	茨城	群馬	山形	京都
3位	茨城	宮崎	茨城	福岡	青森	埼玉	埼玉	長野	北海道	福島	千葉	福岡
4位	大分	鹿児島	岐阜	東京	滋賀	千葉	北海道	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉
5位	北海道	愛媛	千葉	群馬	京都	山梨	鹿児島	徳島	群馬	千葉	北海道	滋賀

* このほかにも、パンジー(1位)、洋ラン(切り花)(2位)、チューリップ(切り花)(2位)、花木類(3位)などが産出額上位 (農林水産省調べ)

◆ 林 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
林家 * 1	戸	5,749	690,047	0.8	42	令和2年2月1日	
森林面積 * 2	ha	119,779	25,048,199	0.5	41	平成29年3月31日	
		天然林	59,037	13,480,590	—		—
		人工林	59,235	10,203,842	—		—
		その他	1,508	1,363,768	—		—

(* 1 : 農林水産省「農林業センサス」 * 2 : 林野庁「森林資源の現況」)

◆ 関連産業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
直売	有人直売所設置か所数 * 1	か所	280	—	—	令和4年3月31日	
	有人直売所販売金額 * 1	億円	283	—	—		
市場	卸売市場数 * 1	か所	29	973	—	令和4年4月1日 (全国は令和2年度)	
	卸売市場取扱金額 * 1	億円	1,175	62,613	—	—	
食品製造	食料品製造出荷額 * 2	億円	18,802	266,130	7.1	2	令和2年
	物菜		823	10,058	8.2	1	
	アイスクリーム		1,477	4,497	32.8	1	
	和風めん		319	2,881	11.1	1	
	野菜漬物		281	3,315	8.5	2	
	清酒		145	3,526	4.1	6	

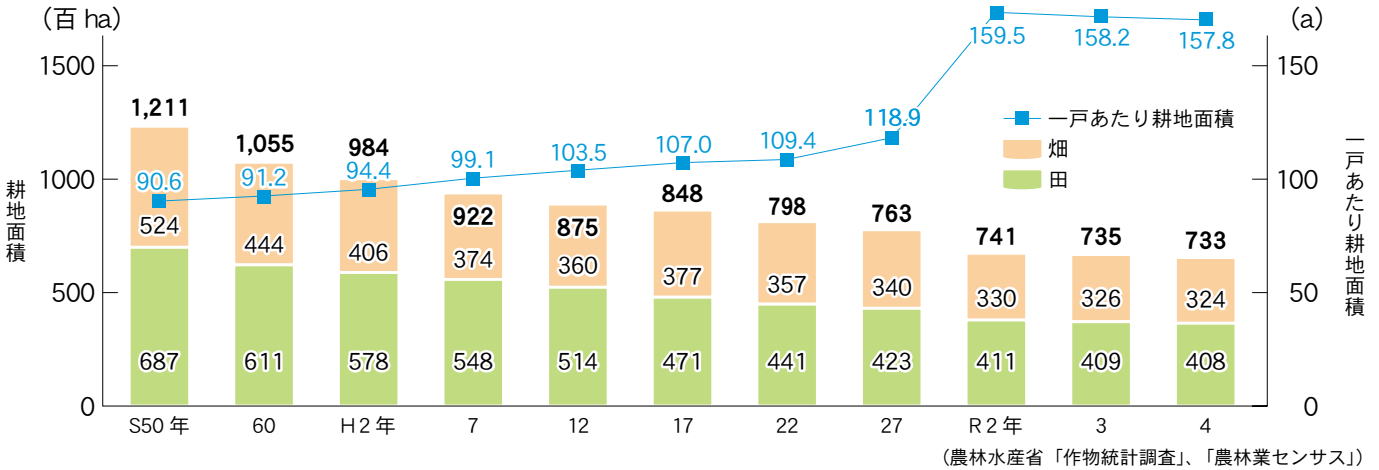
(* 1 : 埼玉県は農業ビジネス支援課調べ、全国は農林水産省調べ * 2 : 経済産業省「経済センサス-活動調査」)

3 埼玉農林業の構造

◆ 農 業

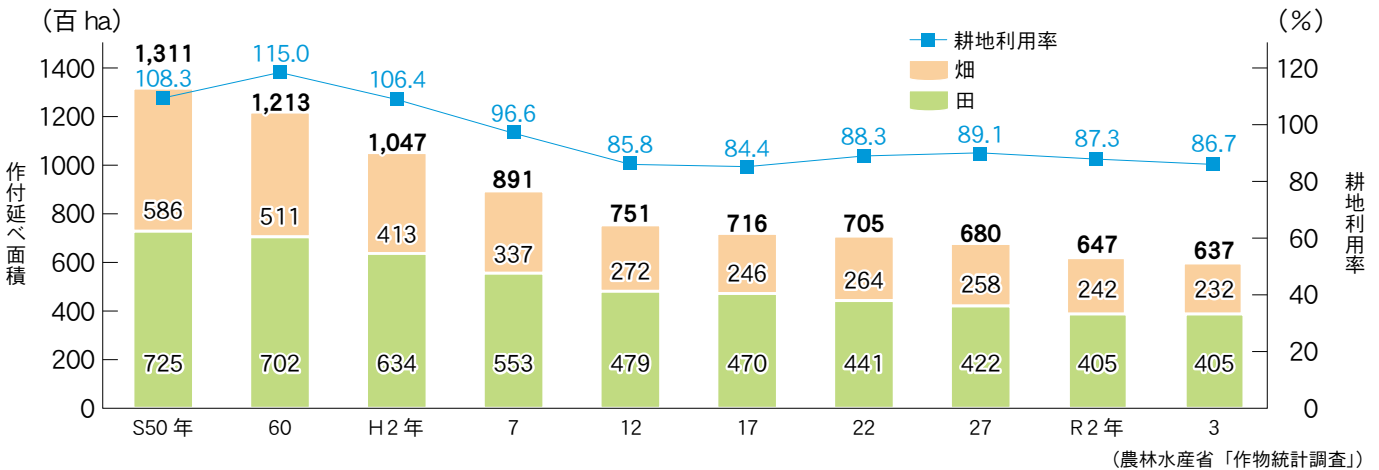
- 耕地面積は 73,300ha（田が 40,800ha、畑が 32,400ha）。
- 耕地率（県土面積に占める耕地面積の割合）は、19.3%で全国第 4 位。

耕地面積の推移



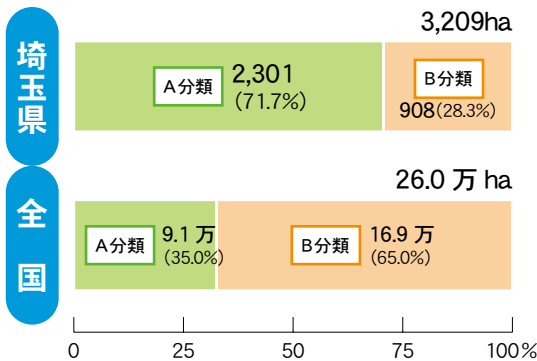
- 作付延べ面積は 63,700ha（田が 40,500ha、畑が 23,200ha）。
- 耕地利用率は近年 90%をやや下回る水準で推移。

作付延べ面積と耕地利用率の推移



- 荒廃農地面積は 3,209ha。
- 担い手の農地利用集積面積は 23,828ha。

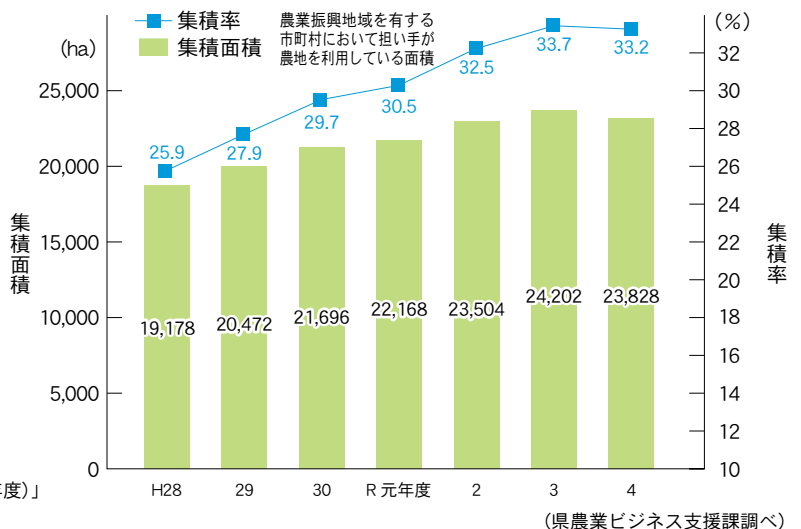
荒廃農地面積（令和 3 年度）



- A 分類 再生利用が可能な荒廃農地
- B 分類 再生利用が困難と見込まれる荒廃農地

(農林水産省「遊休農地に関する措置の状況に関する調査（令和 3 年度）」)

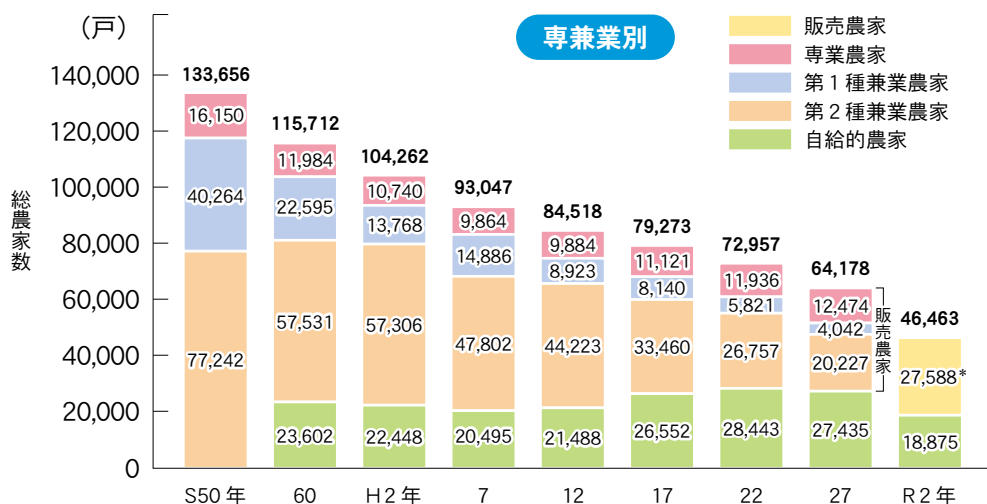
農地利用集積面積の推移



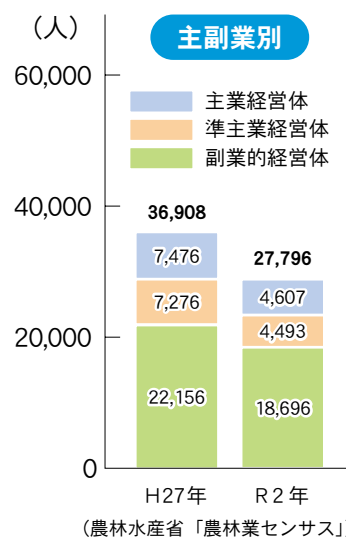
◆農家・農業経営体

●総農家数は46,463戸。販売農家数は27,588人。

総農家数の推移（専業別）



個人経営体数の推移（主副業別）



販売農家 経営耕地面積 30 a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家（家族経営法人を含む）

【専業別】 専業農家 世帯員中に兼業従事者が一人もいない農家
 第1種兼業農家 農業所得を主とする兼業農家
 第2種兼業農家 農業所得を従とする兼業農家

* 2020年（R2）センサスから、販売農家の内訳は集計無し

自給的農家 経営耕地面積が 30 a 未満で、農産物販売金額が 50 万円未満の農家

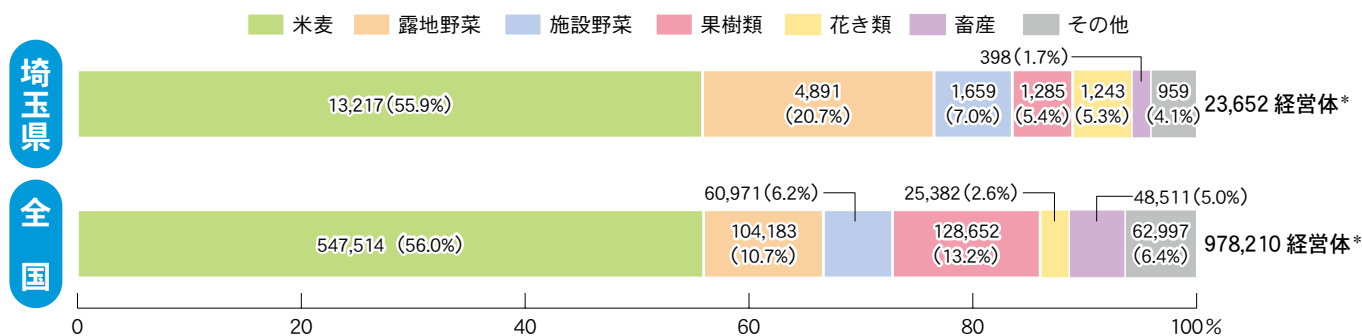
農業経営体 経営耕地面積が 30 a 以上、農産物販売金額が 50 万円以上、作付面積等の物的指標が一定経営規模以上の農業生産を行う者、又は農作業の受託の事業を行う者

個人経営体 個人（世帯）で事業を行う農業経営体（法人を含まない）

【主副別】 主業経営体 農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる個人経営体
 準主業経営体 農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる個人経営体
 副業的経営体 65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいない個人経営体

●農産物販売金額1位の部門別経営体数は、全国に比べて野菜・花き部門が多い。

農産物販売金額1位の部門別個人経営体数（令和2年）



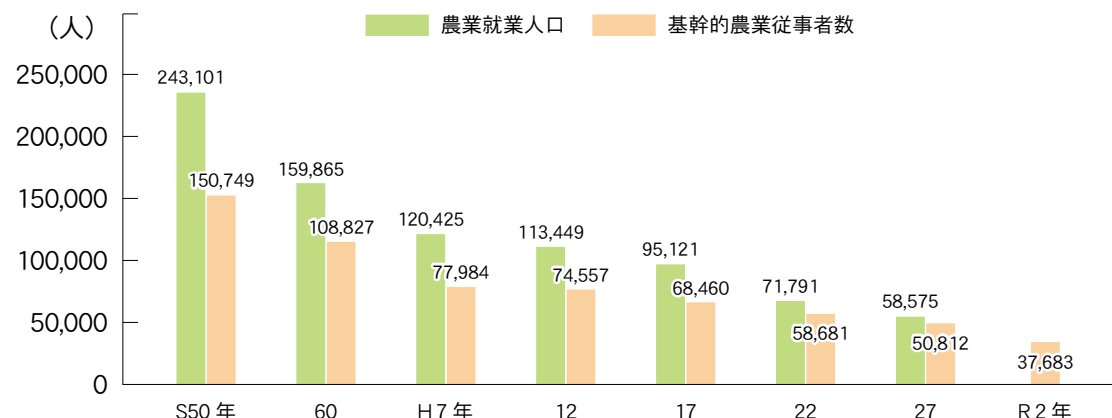
*農作業受託のみを行う経営体など、農産物販売金額がない個人経営体は含まない。

(農林水産省「農林業センサス」)

◆農業労働力

●基幹的農業従事者数は37,683人(20年間で約5割減少)。

農業就業人口・基幹的農業従事者数の推移



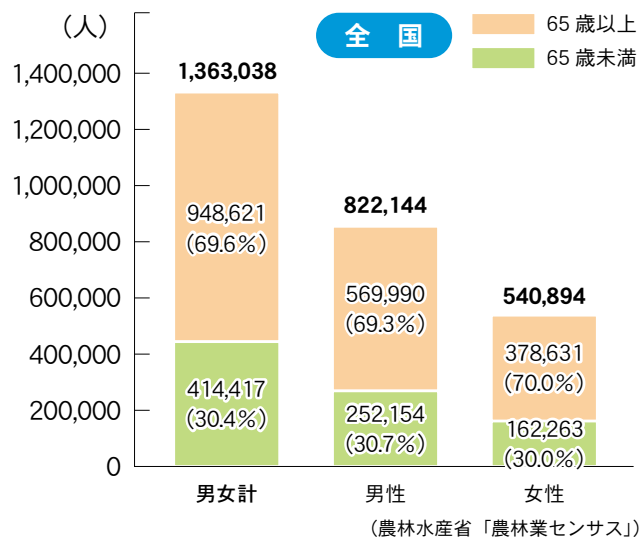
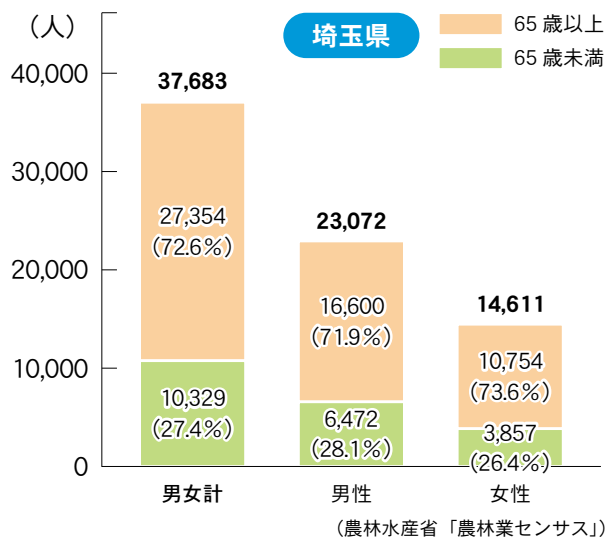
***農業就業人口**
 15歳以上の世帯員で、「農業のみに従事した者」と「農業とその他の仕事に従事したが農業の従事日数の方が多い者」の合計。
 (令和2年から集計無し)

***基幹的農業従事者**
 農業に主として従事した世帯員のうち、調査期日前1年間の普段の主な状態が仕事（農業）の者。

(農林水産省「農林業センサス」)

● 基幹的農業従事者の約 72.6% が 65 歳以上。

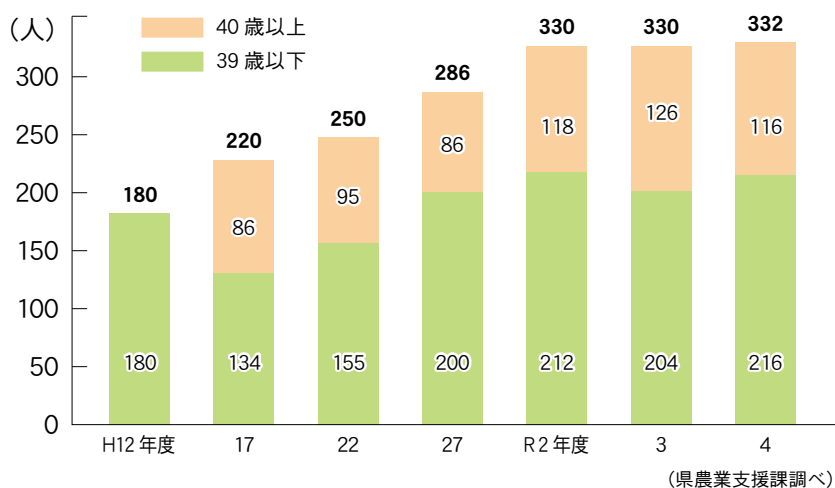
基幹的農業従事者数の性別・年齢別構成（令和 2 年）



◆新規就農者

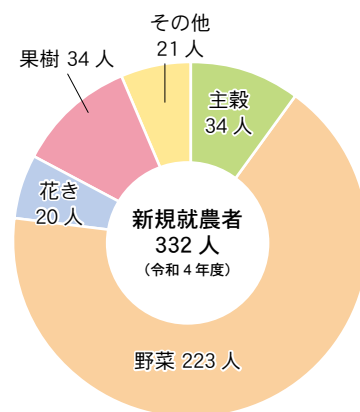
● 新規就農者数は、近年 300 人を上回る水準。

新規就農者数の推移



● 新規就農者の経営類型は野菜が約 7 割。

新規就農者の経営類型

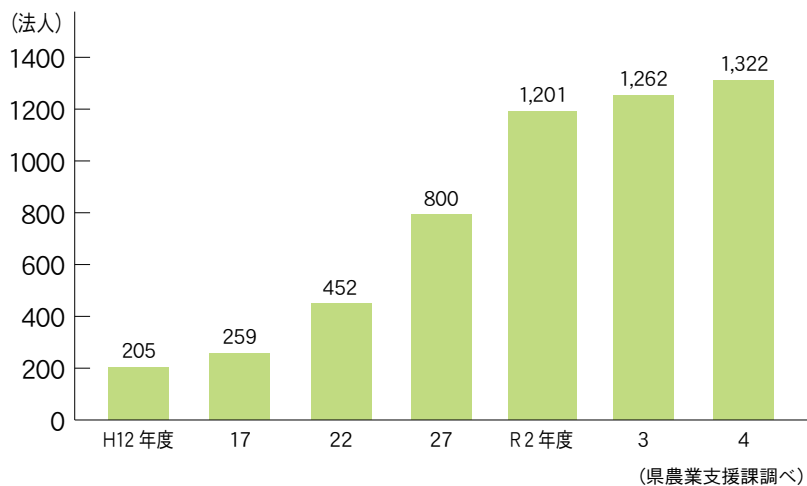


* 調査は、令和 3 年 9 月～令和 4 年 8 月の 1 年間 (県農業支援課調べ)

◆農業法人

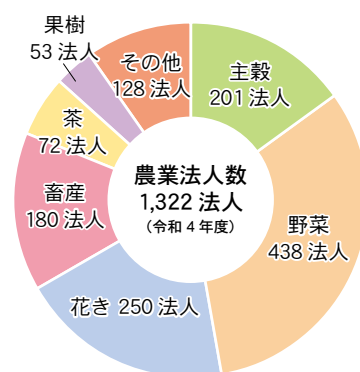
● 農業法人数は 1,322 法人。

農業法人数の推移



● 農業法人の経営類型は野菜が最も多く 438 法人。

農業法人の経営類型

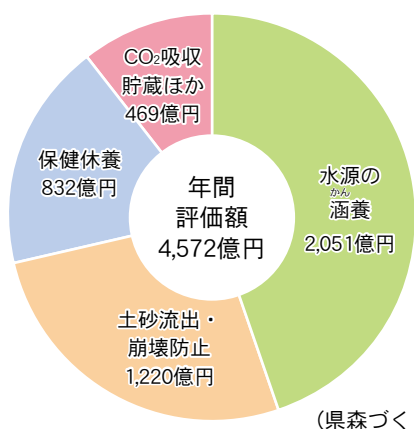


(県農業支援課調べ)

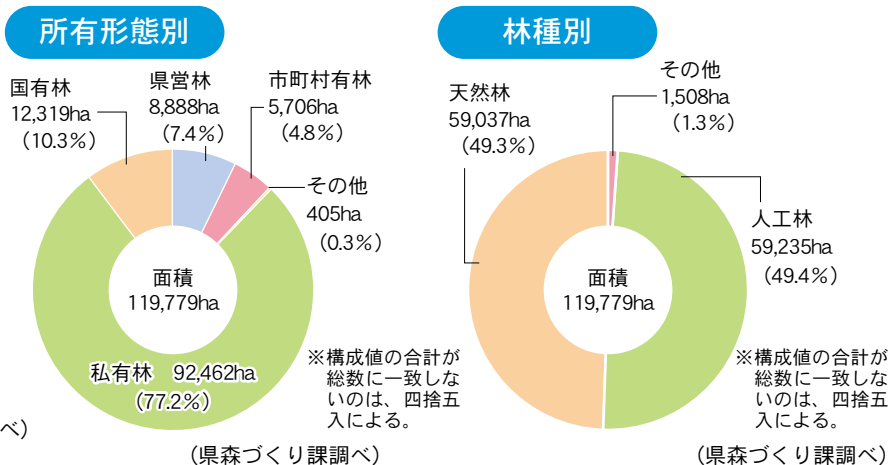
◆森林の現況

- 森林は県土面積の約3割。
- 森林は水源の涵養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵機能など多様な機能を発揮。
- 森林の所有形態別では私有林が約8割を占め、種類別では約5割がスギ・ヒノキを中心とした人工林。

県内森林の公益的評価額



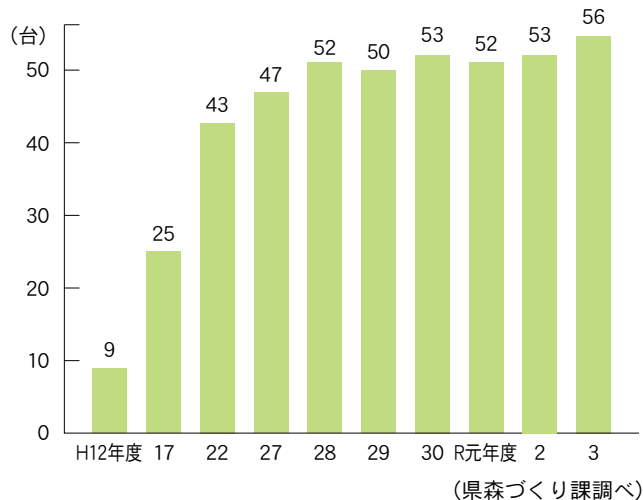
埼玉県の森林面積 (平成29年)



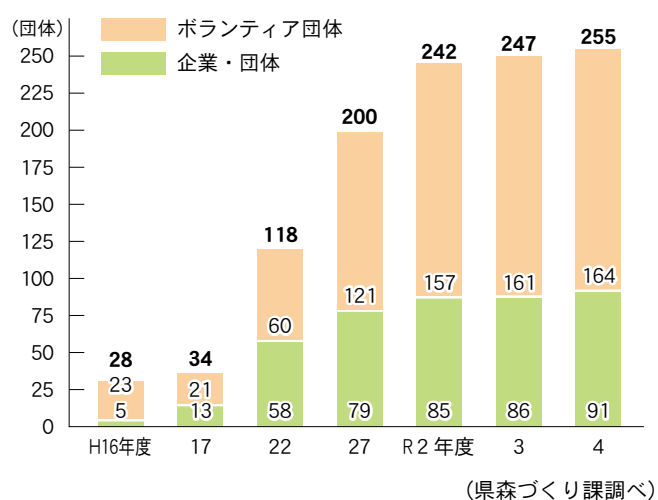
◆森林・林業・木材産業の取組

- 路網の整備、高性能林業機械の導入、低コスト造林などを促進し、林業の採算性を向上。
- 植栽や間伐などの森林ボランティア活動に参加する企業や団体が増加。
- 県産木材の供給量は8万8千m³。

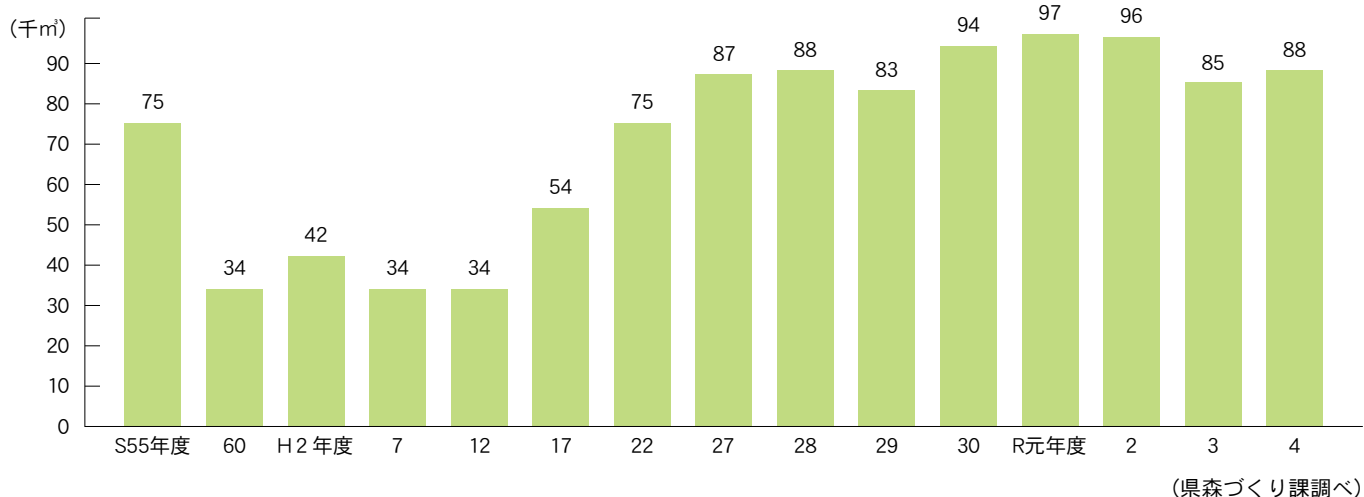
高性能林業機械の保有台数



森林ボランティア活動に参加する企業・団体数



県産木材供給量の推移



4 R3 埼玉県の農業産出額の概要

◆農業産出額

- 農業産出額は 1,528 億円で全国第 21 位。
産出額が日本一のさといも、ねぎをはじめ、多くの野菜が全国トップクラス。
小麦、花き、茶等も全国有数の地位。

※ (%) は全国シェア、[位] は全国順位

小麦 7 億円 (全国第 6 位)

作付面積	収穫量
5,080ha [9位]	20,000 t (2%) [9位]
うち さとのそら 3,470ha	
あやひかり 1,430ha	
その他 180ha	

*品種の内訳は県生産振興課推計値

果実 53 億円 (全国第 37 位)

主な品目	産出額	収穫量
く り	2 億円 [8位]	581 t (4%) [5位]
な し	24 億円 [10位]	6,470 t (4%) [10位]
ぶ どう	13 億円 [22位]	1,310 t (1%) [20位]

茶(生葉) 13 億円 (全国第 7 位)

主な品種	栽培面積	収穫量 (対主産県シェア)
やぶきた さやまかおり ふくみどり	783ha [8位]	生葉 3,400 t (1%) [8位]

花き 158 億円 (全国第 6 位)

主な品目	産出額	出荷量 (対主産県シェア)
パンジー	5 億円 [1位]	832万本 (8%) [1位]
チューリップ(切り花)	3 億円 [2位]	—
洋ラン(鉢)	33 億円 [3位]	56万鉢 (5%) [6位]
ゆ り	22 億円 [3位]	2,440万本 (21%) [1位]

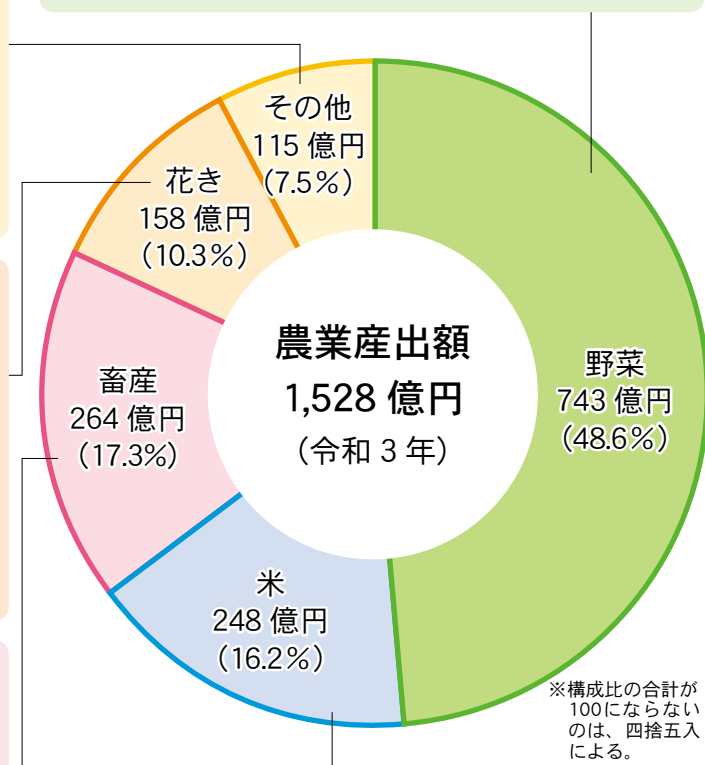
畜産 264 億円 (全国第 33 位)

主な品目	産出額	飼養頭羽数
乳用牛	69 億円 [24位]	7,680頭 (1%) [24位]
肉用牛	45 億円 [34位]	17,800頭 (1%) [33位]
豚	52 億円 [25位]	76,200頭 (1%) [27位]
採卵鶏	93 億円 [23位]	4,294千羽 (2%) [19位]
		うち成鶏めす 2,608千羽 (2%) [21位]

※採卵鶏の産出額は鶏卵の金額

野菜 743 億円 (全国第 9 位)

主な品目	産出額	収穫量
さといも	45 億円 [1位]	18,700 t (13%) [1位]
ね ぎ	141 億円 [1位]	52,400 t (12%) [1位]
ほうれんそう	79 億円 [1位]	22,800 t (11%) [1位]
こまつな	31 億円 [2位]	14,300 t (12%) [2位]
か ぶ	13 億円 [2位]	16,000 t (15%) [2位]
きゅうり	97 億円 [4位]	45,500 t (8%) [3位]
ブロッコリー	39 億円 [4位]	16,000 t (9%) [2位]
えだまめ	35 億円 [4位]	5,570 t (8%) [5位]
はくさい	15 億円 [4位]	24,600 t (3%) [4位]



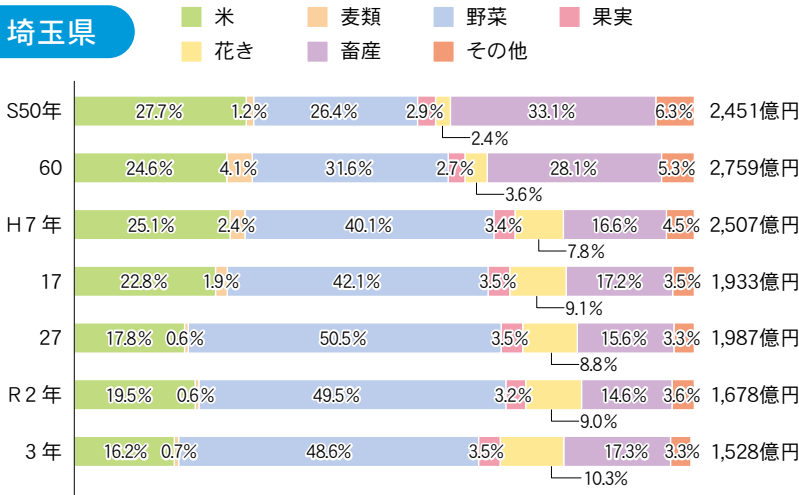
米 248 億円 (全国第 18 位)

主な品種	作付面積	収穫量
コシヒカリ 彩のかがやき 彩のきずな	30,000ha [18位]	152,400 t (2%) [18位]

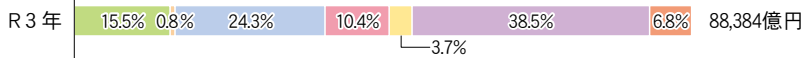
※産出額は令和 3 年、収穫量等は令和 3 年産の値。ただし、飼養頭羽数は令和 4 年 2 月 1 日調査の値。(農林水産省調べ)

農業産出額の構成比

埼玉県



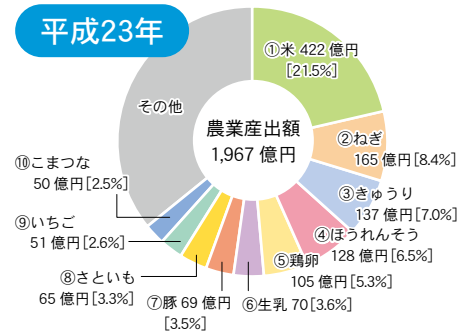
全国



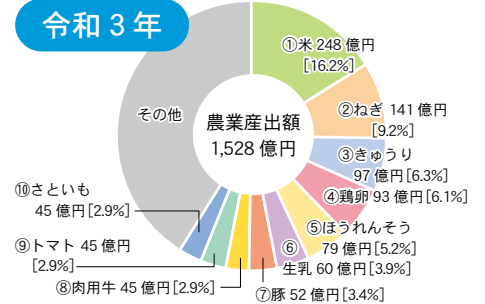
※構成比の合計が100にならないのは、四捨五入による。
(農林水産省「生産農業所得統計」)

農業産出額上位10品目

平成23年



令和3年



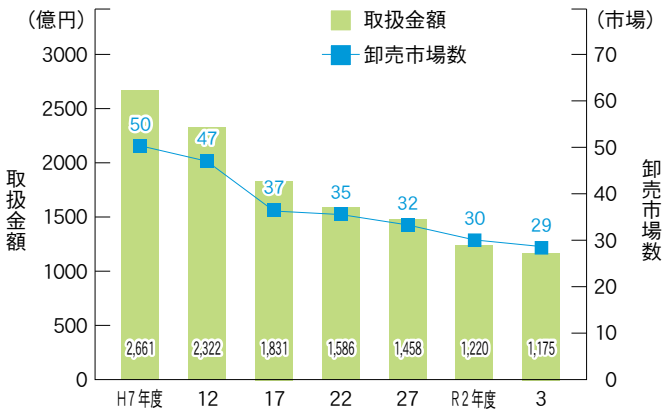
(農林水産省「生産農業所得統計」)

◆関連産業

●卸売市場における取扱金額は平成初期にピークを迎え、その後、減少傾向で推移。

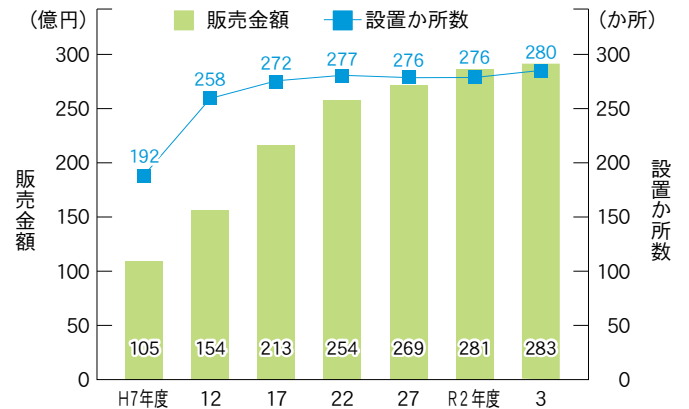
●有人農産物直売所の販売金額は283億円で、本県農業産出額の約18.5%に相当。

卸売市場数と取扱金額の推移



(県農業ビジネス支援課調べ)

有人農産物直売所販売金額と設置か所数の推移

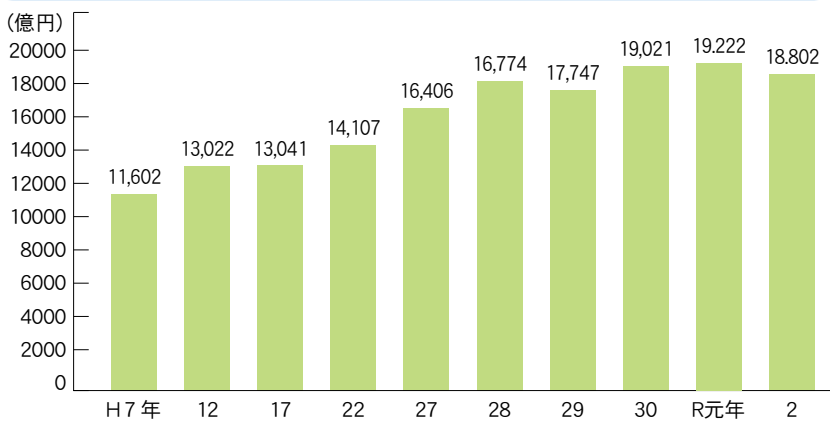


(県農業ビジネス支援課調べ)

●食料品製造出荷額は1兆8,802億円で、全国第2位。

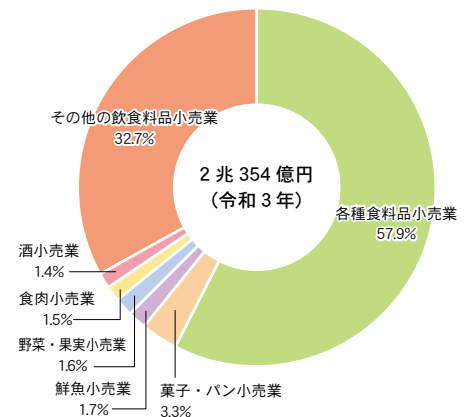
●飲食料品小売業全体の販売金額のうち、各種食料品小売業(スーパーマーケット等)が占める割合は58%。

食料品製造出荷額の推移



(経済産業省「工業統計表(品目編)」、「経済センサス-活動調査」)

飲食料品小売業の販売金額



(経済産業省「経済センサス-活動調査」)

※構成比の合計が100にならないのは、四捨五入による。

◆部門別動向

米

本県の稲作は、4月に田植えをして8月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、7月初めまで田植えをして10月に出荷する県北部地域の小麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

本県で育成した「彩のかがやき」は、複数の病害虫に抵抗性がある特性を生かした減農薬栽培を基本に、安全・安心でおいしいお米として、多くの県民から支持されています。

また同じく本県で育成した「彩のきずな」は、減農薬による安全・安心な栽培はもちろん、暑さに強いため、安定した品質ともっちりとした食感が特徴のおいしいお米として、作付面積を拡大しています。

■ [令和4年産 (水稲)]

作付面積	生産量
28,600ha (全国第18位)	142,400t (全国第19位)

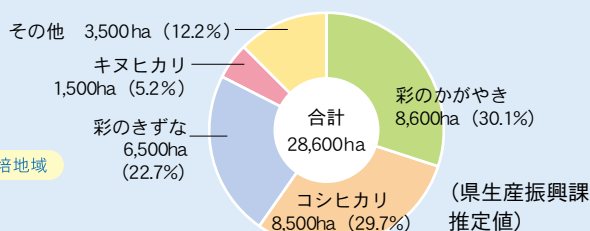
(農林水産省「作物統計調査」)

■地域別

水稲栽培方法



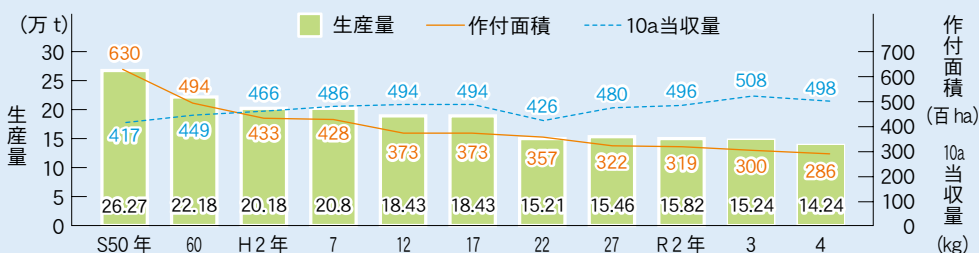
■水稲うるち米品種別作付面積割合 (令和4年産)



(県生産振興課推定値)

※構成比の合計が100にならないのは、四捨五入による。

■水稲生産の推移



(注) 陸稲を含まない (農林水産省「作物統計調査」)

麦・大豆

本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、特徴ある在来品種が栽培されています。

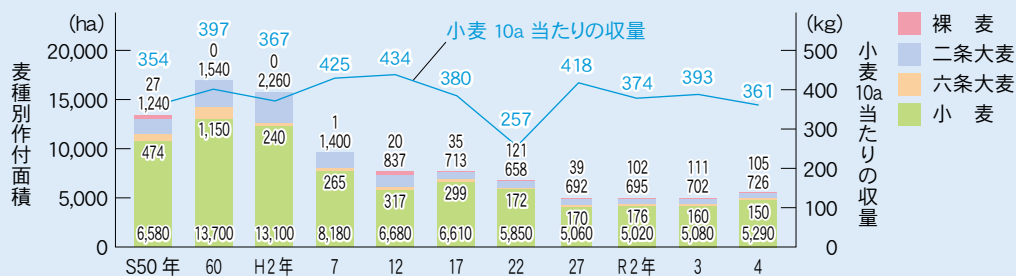
また、平成23年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

■ 令和4年産

	作付面積	生産量
麦類	6,270ha (全国第10位)	22,700t (全国第10位)
大豆	657ha (全国第29位)	545t (全国第30位)

(農林水産省「作物統計調査」)

■麦類生産の推移



(農林水産省「作物統計調査」)

野菜

令和3年産

収穫量
350,646t

(県生産振興課調べ)

本県の野菜生産は、農業産出額の約半分を占め、主要な作目となっています。主な産地は、さといもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、年間を通じて野菜を供給するため、施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやトマト、いちごなどの栽培が行われています。近年、いちごの生産では、県育成品種である「あまりん」「かおりん」「べにたま」の作付面積が拡大しています。

県では、露地野菜を対象とした機械化一貫体系の導入による生産拡大、施設野菜を対象としたICT等先端技術の導入による生産性向上や省力化を進めています。

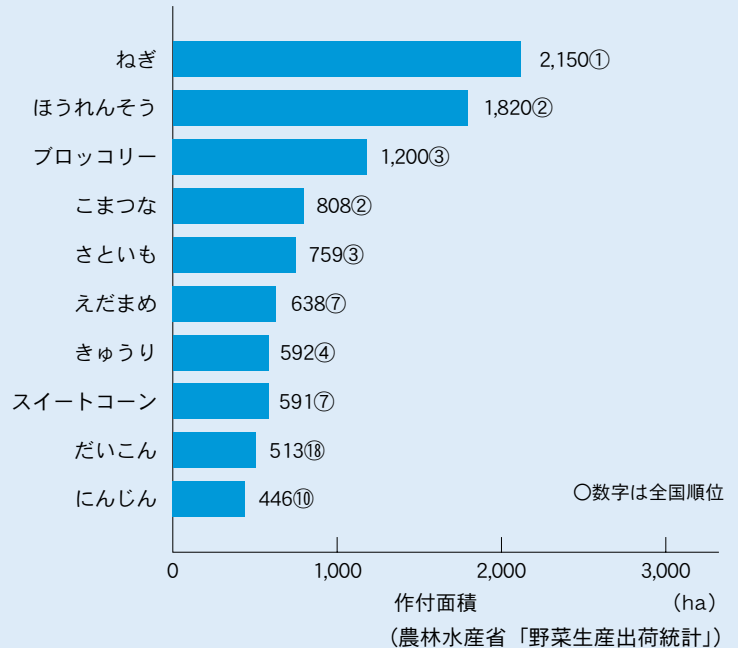
機械化一貫体系の導入による効率的な作業体系の構築



ICT等先端技術を使った施設園芸



■主な野菜の作付面積（令和3年産）



果樹

令和3年産

品目	作付面積	収穫量
なし	322ha	6,470t
ぶどう	156ha	1,310t
くり	581ha	581t
ブルーベリー	60ha	92t
いちじく	9ha	83t

(なし、ぶどう、くり：農林水産省「果樹生産出荷統計」
 ブルーベリー、いちじく：農林水産省「特産果樹生産動態調査」)

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約5割を占め、全国第10位（令和3年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなどの新植も行われています。



茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにやくなどの特産物は、県西北部の中山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

令和4年 概数値

	栽培面積	生産量(収繭量)
茶〈令和4年産〉	729ha (全国第8位)	生葉 3,290 t (全国第8位)
繭〈令和4年産〉	—	3 t (全国第4位)
こんにやく	3 ha (全国第23位) ※令和3年産	165 t (全国第7位) ※平成30年産

(茶 : 農林水産省統計部調べ
繭 : (一財)大日本蚕糸会調べ
こんにやく : 農林水産省統計部調べ)



伸びる狭山茶の新芽



出荷する繭の選別(選除繭)

畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。

近年は、ICTを活用した生産の省力化や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色あるブランド畜産物の生産・販売も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特徴を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営もみられます。

令和4年

	飼養頭羽数
乳用牛	7,680 頭 (全国第24位)
肉用牛	17,800 頭 (全国第33位)
豚	76,200 頭 (全国第27位)
採卵鶏 (成鶏めす)	2,608 千羽 (全国第21位)

(農林水産省「畜産統計」) ※令和4年2月1日時点



哺乳ロボット



彩たまご

特用林産物

令和3年

本県で生産される特用林産物は、しいたけ等のきのこ類を主として、木炭、タケノコなど多岐にわたっています。生しいたけの生産量は、昭和55年の2,372 tをピークに、長期的に逡減しています。また、平成10年以降は、菌床栽培が原木栽培の生産量を上回るようになってきています。

県では、しいたけなど特用林産物の生産基盤を支えるため、きのこの原木や菌床用培地の生産資材の導入支援を行っています。

	生産量
きのこ類	2,689t
木炭	18t
タケノコ	2t

(林野庁「特用林産基礎資料」)



しいたけの原木栽培



しいたけの菌床栽培

花・植木

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリ、チューリップなどの球根切り花や「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類、鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物など全国でも有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花育の推進や花植木大商談会等の普及啓発活動を支援しています。また、県が育成した芳香シクラメンの安定生産やLEDを利用した花きの高品質生産の取組、夏に適した品目の選定支援や県産花きを使用した啓発展示を推進しています。

令和2年産

栽培面積
874ha

(農林水産省「花き生産出荷統計」及び「花木等生産状況調査」)



県が育成した芳香シクラメン



小学生を対象とした花育教室



消費拡大プロモーション（展示会）

水産

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。

また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、子持ちホンモロコの生産など付加価値の向上に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の魚場を管理しています。

令和2年産

漁業養殖業生産量
235t

(県水産研究所調べ)



キンギョ



ホンモロコ



アユ釣り風景

5 令和5年度の主な食料・農林水産業・農山村施策

農林漁業者の経営力向上や農林水産業の競争力・持続性の強化を図るとともに、多面的機能の発揮を促進し、農林水産物を安定供給するための主な取組をご紹介します。

農林漁業者の経営能力を生かした、競争力の高い農林水産業の実現

新規就農者の確保・育成及び定着を図るとともに女性農業者や高齢農業者の活躍や企業などの参入を促し、地域農業を支える多様な担い手を育成します。

主な事業 明日の農業担い手育成塾推進事業

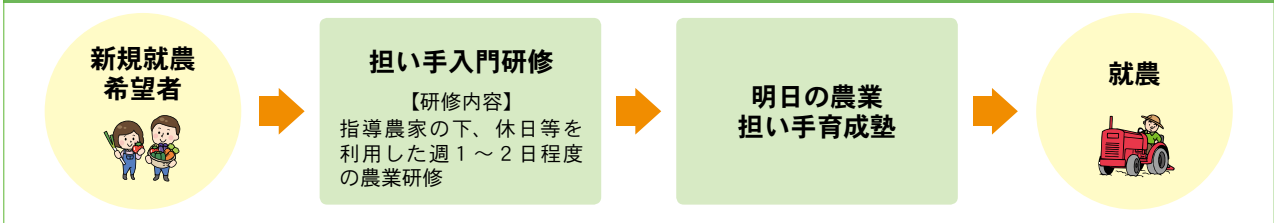
就農相談窓口の設置と「明日の農業担い手育成塾」の運営支援等により、農家子弟を含めた新規就農希望者の円滑な就農を促進し、多様な担い手の確保育成を図ります。



※担い手入門研修とは

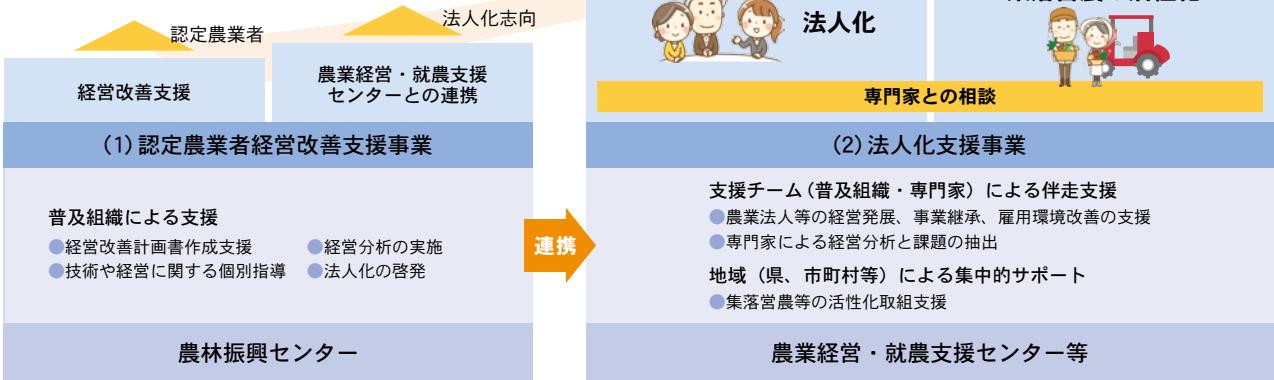
明日の農業担い手育成塾に入塾するためには、農業大学校等における一定程度の基礎研修が必要となっています。県ではその基礎研修の一つとして、令和3年度から「担い手入門研修」を設置・運営しています。「明日の農業担い手育成塾」への新たなステップを整備することで、さらなる担い手の確保育成を図ります。

担い手入門研修を活用した新規就農までのフロー（一例）



主な事業 農業経営法人化推進事業

地域農業の担い手である認定農業者などの経営発展を支援し、農業経営の法人化を推進します。



地域の特性に応じた、収益性が高く安定的な農林漁業経営に立脚する、持続性の高い農林水産業の実現

収益性が高く安定的な農林漁業経営に資するよう、農地の生産基盤や森林整備などに取り組みます。また、農林水産業に係る様々なリスクへの対応を図るとともに、デジタル技術を活用したスマート農林水産業の推進や本県の自然条件に適した新技術の開発・普及により、イノベーションを促進し生産性を向上させます。

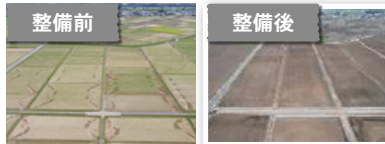
1 生産基盤

主な事業 農業生産を支える基盤の整備

農地の大区画化等により農業生産性の向上と営農条件の改善を図り、農地の利用調整による経営規模の拡大や高収益を目指す農業経営体の育成を促進します。また、農業水利施設の整備により用水不足や排水不良を解消するとともに、農業用ため池の耐震化と計画的な保全管理を推進し、自然災害の未然防止を図ります。

担い手を育む農地の整備

- =ほ場整備事業=
● 農地の大区画化
● 耕作道路を拡幅



農業水利施設の整備

- =農地防災事業=
● 老朽化した農業用ため池等の整備



主な事業 水源地域の森づくり事業

水源地域において、手入れの遅れやシカの被害等により荒廃し緊急に整備が必要となっている森林を対象として、針広混交林の造成や荒廃森林の再生を行い、水源涵養機能などの多面的機能の維持向上やスギ花粉の削減、景観向上を図ります。



林内が暗くなったため下草が減り土壌流出のおそれがある森林

整備され針広混交林化しつつある森林

2 リスク対応

主な事業 特定家畜伝染病防疫体制強化事業

高病原性鳥インフルエンザや豚熱、アフリカ豚熱などの家畜伝染病の予防対策に取り組みます。また、万が一発生した際に、迅速で的確な初動対応及び防疫措置の実施により、早期の終息及びまん延防止を図ります。

家畜衛生情報共有システムの活用

- 農家情報等の管理・更新
- 畜舎のレイアウトや農場内の作業動線など、防疫作業に必要な情報を収集・更新
- 家畜伝染病発生時に必要となる情報の一元管理
- 飼養衛生管理基準の遵守状況や野生いのしし等の調査結果を踏まえた農場指導



家畜伝染病発生時に備えた初動対応の準備

- 伝染病発生時に、資材運搬、消毒ポイント設営、作業従事者の輸送等、協定団体等と連携した速やかな初動対応の実施
- 伝染病発生時の、炭酸ガスや消毒用石灰等の防疫資材の迅速な確保



家畜伝染病の発生予防・早期の終息及びまん延防止

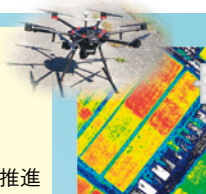
3 イノベーション

主な事業 気候変動に対応した農業技術開発事業

埼玉県信用農業協同組合連合会からの寄附金を活用し、環境負荷低減や環境適応などを目的とした試験・実証を実施します。

新たな技術開発・実証

- ◆ 高温登熟耐性と障害型冷害耐性を両立したイネの育成
- ◆ バイオ炭利用による二酸化炭素貯留・作物生産性向上技術の開発
- ◆ 水稲乾田直播栽培の冬期播種技術の開発
- ◆ ユリの施設栽培における局所温度管理技術の開発
- ◆ 施肥方法による一酸化二窒素排出削減効果の実証
- ◆ ドローンによるリモートセンシング技術を活用した水稲の適正施肥の推進



効果実証例

リモートセンシング技術の活用による生育診断マップの作成
↓
化学肥料の低減等適正施肥の推進

気候変動に対応した栽培技術・品種の導入

主な事業 スマート農業の推進

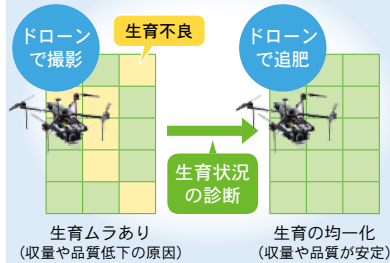
農業従事者が減少・高齢化する中、作業の「省力化」「効率化」による規模拡大や経営の高度化、これまで経験や勘として培われてきた技術・知識の「見える化」を通じて、先端的な情報通信技術等を活用したスマート農業を促進します。

研究開発

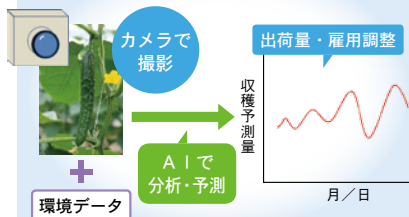
スマート農業に関する研究

- ドローンを活用した水稲や麦の生育障害監視技術の開発
- 施設キュウリ生産におけるAIの活用による生育・収量予測技術の開発

ドローンを用いた高温障害等の軽減



AIによるキュウリの収量予測



技術実証

スマート農業普及推進事業

- スマート農業普及推進研究会の開催
- モデル経営体によるスマート農業技術の実証



果樹産地再生支援事業のうち未来型果樹園実証展示事業

- 省力化生産モデルの実証試験地を整備
- 企業と連携した先端技術の実証



普及実装

施設園芸パイオニア技術推進事業

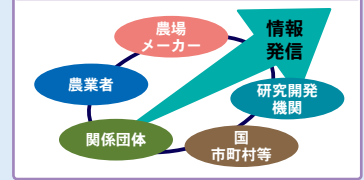
- スマート機器等の新たな整備や栽培管理データの共同活用を支援
- 気候変動下のハウスの昇温対策や収穫調製作業の省力化を支援



スマート農業の普及促進体制の整備

- 関係者が連携・協力し取り組むプラットフォームの設置

プラットフォーム

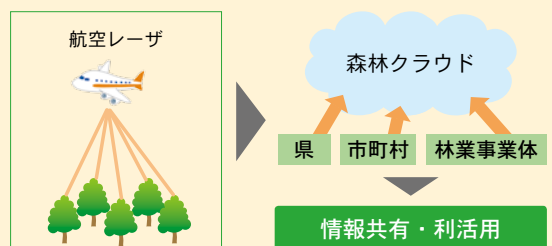


主な事業 スマート林業の推進

林業従事者数が減少し、木材価格が低迷する中で、林業を維持・発展させていくために、ICT 技術を活用し、森林資源情報の精度の向上や素材生産の省力化を進め、生産性の向上を図ります。

県による森林資源調査の実施

- 航空レーザを活用した資源調査の実施
- 調査等で得られたデータを共有する森林クラウドシステムを運用



林業事業者の取組支援

- 地上レーザ等の導入を支援し、高精度資源量管理を推進
- 丸太仕分け作業及び丸太自動認識システム等の導入を支援し、省力化を推進

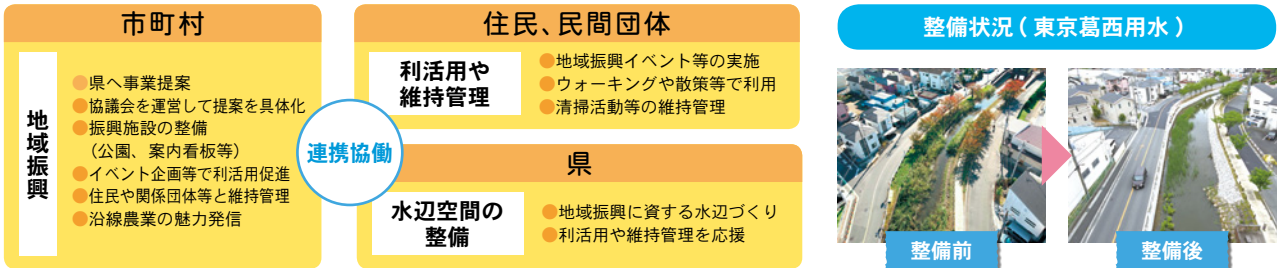


多面的機能が発揮される農林水産業及び農山村の実現

農業用水周辺の水辺の整備を通じて、良好な景観の形成、親水空間の提供など、多面的機能の発揮を図ります。また、都市部においても森林への理解を醸成し、都市と山村の連携による森づくりを促進します。

主な事業 水辺周辺活用事業（農業用水）

農業生産のために維持されてきた身近な水辺を対象として、県などが水路や遊歩道の整備を実施します。さらに市町村や地域住民と連携し、整備した水辺空間を活用したイベントの実施や周辺マップ作成等を通じて、都市近郊農業の魅力を発信します。

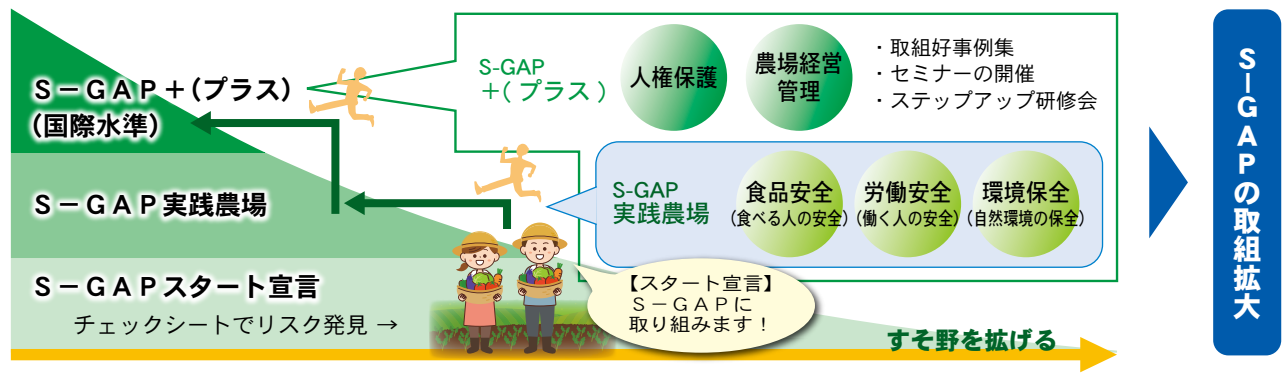


需要に対応し、消費者に信頼される良質かつ安全な農林水産物を安定供給できる農林水産業の実現

県産農産物の安心・安全向上に取り組みます。また、農業の環境負荷低減や、気候変動への対応を図るための環境を整備するとともに、県産農産物のブランド力の強化・定着を通じて需要拡大を図ります。

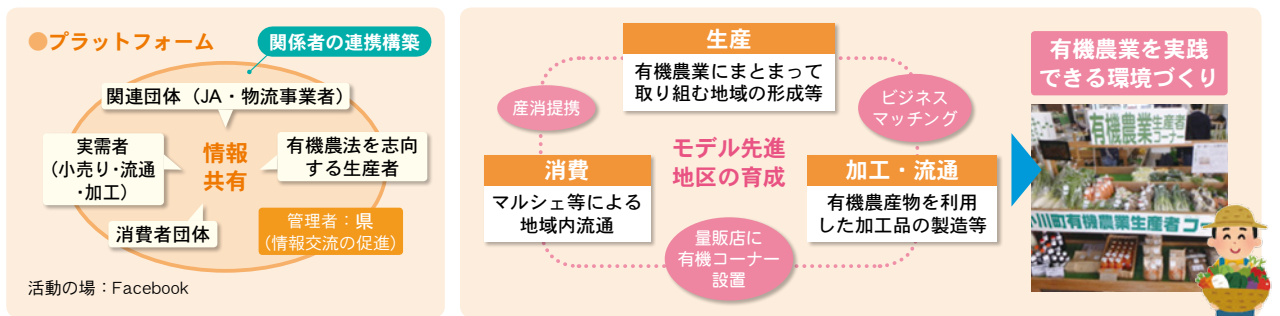
主な事業 S-GAP取組拡大事業

多くの農業者が取り組みやすく、国際水準 GAP にも対応した新たな S-GAP 制度を作り、農業者の取組の段階に応じた指導・支援を行うことで、安全で持続可能な農業経営を実現するとともに、安全安心な県産農産物を供給します。



主な事業 有機の輪スタートアップ事業

有機農業生産者と消費者・実需者等がオンライン上で交流できる場の運営や、先進的な取組を行う地区への支援などを行い、生産者が有機農業を実践できる環境をつくります。



主な事業 県産農産物販売促進事業

県産農産物をより多くの消費者に知って食べていただける取組や輸出支援を進め、県産農産物の販売促進及び輸出額の増加を図ります。

産地のブランド化や輸出を含めた総合的な販売対策の実施



県産農産物のイメージアップ → 販売機会の増加 → 売上向上

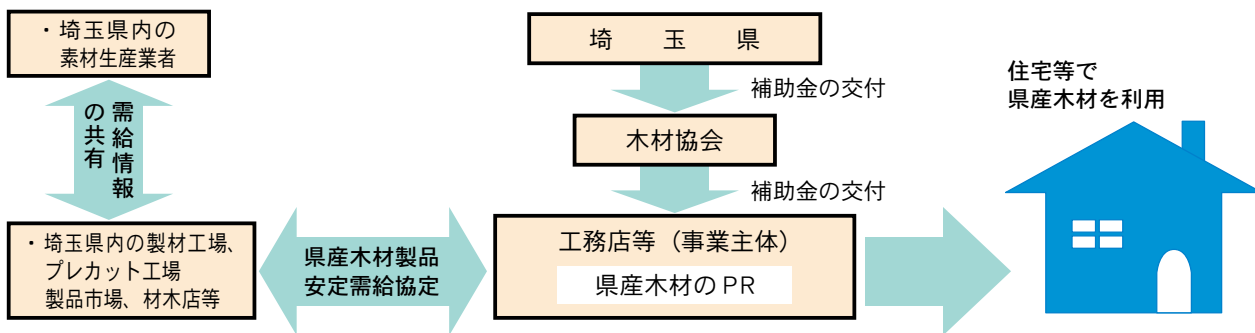
主な事業 県産米競争力強化プロジェクト推進事業

主食用米の需要が減少する中で、県産米の販売促進やブランド化を支援していくことで、競争力強化を図り、県産米全体の評価を向上させます。



主な事業 県産木材活用住宅等支援事業

住宅・事務所・店舗等における県産木材の利用拡大による「伐って・使って・植えて・育てる」という森林の循環利用を促進させる事を目的として、新築・改築・内装木質化について、製材工場等と協定を締結し、県産木材を40%以上利用する工務店等に対する支援を行います。



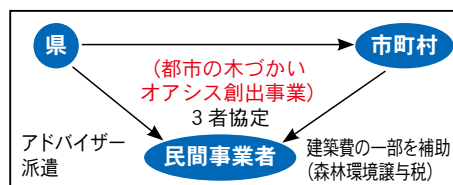
主な事業 県産木材需要拡大事業

①都市と山をつなぐ木造施設整備支援事業

木造建築技術アドバイザーの認定・登録、派遣、資質向上のための研修、木造建築に関する情報提供等を通して、市町村や民間事業者が整備する建築物等における県産木材の利用拡大を支援します。

②都市の木づかいオアシス創出事業

不特定多数が集まる建築物の整備を予定する民間事業者と建設予定地の市町村に働きかけ、県を含む3者以上で建築物木材利用促進協定を締結し、民間建築物における県産木材利用を進めるとともに、市町村の森林環境譲与税活用を促します。



農林水産業・農山村の多様な役割

本県の農林水産業は県民への食料の安定供給や木材生産といった基本的な役割に加えて、県土の保全、水源の涵養、水質・大気浄化、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など多様な役割を担っています。



(さいたま水族館提供)



<https://www.facebook.com/saitama.nourin>



https://twitter.com/saitama_nourin

2023年

「埼玉の食料・農林水産業・農山村」

令和5年8月発行

編集 発行：埼玉県農林部

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3丁目15番1号

電話 048-830-4031



この冊子は再生紙を使用しています